

## 31 愛知県下の高気圧酸素治療の現状

間中泰弘<sup>1)</sup> 藤田智一<sup>1)</sup> 天野陽一<sup>1)</sup>  
浅野良夫<sup>2)</sup>

- (1) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科  
(2) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 脳神経外科

愛知県内での高気圧酸素治療の認知度は低い。これらの原因は、大学病院をはじめ研修施設での高気圧酸素治療装置の減少や、治療患者・回数減少等の理由から高気圧酸素治療に接する機会が少なく、それらがさらに医師の高気圧酸素治療に対する認知不足を招いている。

当院は、1984年に第1種装置2台での稼動が始まり24年が経過し、現在まで3180症例、28456回施行してきた。しかし院内での治療患者数の減少などにより耐用年数が経過した機器の更新が見送られ、平成20年度より1台での稼動となった。この様な状況から我々は、治療継続の為に何らかの対策を講じていかなければと危機感を募らせた。

現在、日本高気圧環境・潜水医学会では、高気圧酸素治療技術部会の中に各ブロックが存在しており、それらが地方会・学術集会などを開催する事で、施設間での連携を図り又、個々の安全や技術の向上を図っている。しかし、東海地方が所属している中部・北陸ブロックに関しては、その様な活動が現在まで行われていなかった。

そこで、我々は活路を見出す為、まずは愛知県下で高気圧酸素治療を施行している病院各位に向け高気圧酸素治療に関する現状と題したアンケートを実施し、それを元に治療状況や各施設が抱えている問題点、取り組みなどの情報を交換した。これは、東海地方の高気圧酸素治療活性化の第1歩であり、アンケート内容と共に今後の展望を報告する。

## 32 諏訪赤十字病院での高気圧酸素療法の現状

清水聖子<sup>1)</sup> 奥山隆之<sup>1)</sup> 宮川宜之<sup>1)</sup>  
上條幸弘<sup>2)</sup>

- (1) 諏訪赤十字病院 臨床工学技術課  
(2) 諏訪赤十字病院 脳神経外科

【はじめに】当院では、1999年9月の移転新築時に第一種HBO装置が導入され、本年6月まで、9376件の治療を行った。当院での高気圧酸素療法を報告し、今後の課題について言及する。

【稼動状況】1999年9月から2008年6月までの、9年10ヶ月の間に9376件の治療を行った。そのうち、救急適応疾患4766件、非救急適応疾患4561件であった。疾患の内訳は、脳塞栓が最も多く、次いでイレウス、頭部外傷、開頭術後の意識障害、急性脊髄障害、突発性難聴の順であった。依頼診療科は、管理医のいる脳神経外科が最も多く、次いで外科、耳鼻科、整形外科の順であった。導入以降、年間1000件以上の治療を行ってきた。しかし、2006年6月のDPC導入後は、導入前に比べ3分の1以下となった。治療効果は、主治医の総合的な判断による統計を取り、著効3%、有効26%、やや有効29%と、有効症例が半数以上を占めた。中止となったのは2%で、中止理由は耳痛が最も多かった。

【結語】当院は2次救急を担う地域支援病院であり、救急医療や高度医療を積極的に行っているが、DPCによる制限や、各診療科での認識の違いによって、治療件数が減少している。他国での適応や学会等での有効症例の報告があるが、特定診療科以外ではHBO自体が浸透していないため、適応症例があっても治療に至らないケースが見られる。一日も早い各疾患のエビデンスの確立を望むと共に、HBOの認識を広めたい。